

みどり

第36号

題字：村上昭史 園長



「より楽しく、より豊かに、より安全に！」

川部みどり園長 村上 昭史

平成24年度みどり園では、「私達は家族。家族として望む支援を利用者に」を合言葉に利用者支援に取り組んできました。

中でも、安全・安心の確保は最重点事項で、虐待防止や権利擁護はもとより、防災対策にも積極的に取り組んだところです。また、新たな事業として、生活訓練と施設入所支援の併用利用事業を開始し新しいニーズに応えるとともに、「発達障害児等支援対策事業」では、その子どもに合った支援ツールの開発など、発達障害児への支援の充実を図ることができました。このほか、食生活で

は自分で選べる「選択メニュー」や朝食時間を弾力的にした「自由朝食」を実施し、利用者の皆さんにとっても喜んでもらえました。これからも笑顔やきらりと光るいきいきとした表情が多く見られたらいいなと思っています。

利用者の皆さんにとって、みどり園がゆったりと過ごせる家庭的な場所であって欲しいとの思いを胸に今後とも頑張っていきたいと考えていますので、皆様の御理解・御協力をよろしくお願い致します。

『よりよいサービスを目指して 新体系2年目』

生活介護 A 班

俺たちはできるぞ！愉しむぞ！
昨年度は、全員参加を目標に頑張ってきました。今年度はA班棟への移動も着席や返事もできるようになってきました。作業の内容やメンバーも増えています。談話室での班独自の喫茶や、近くのお店への買いものなど利用者が自分で選ぶことの楽しさも試みてきました。1歩ずつ小さな歩みですが、可能性を感じさせてくれた1年でした。
(岡田)



生活介護 B 班

「利用者主体」の目標に向けて、まず自分の思いを伝える方法を獲得することが大切です。選択するという経験が少ないために、伝える手段を知らない人も多く、いろいろな経験の場を多くすることに取り組みました。伝えると自分の願いがかなうことを知ると、どんどん積極的になってきます。
メンバーが、豊かな人生を送り、とびっきりの笑顔を見るために様々なことにチャレンジしていこうと思っています。(藤田)



生活介護 C 班

C班では「自分の意思を伝えよう」「活動を楽しもう」「仲間になろう」を目標に活動してきました。絵カードや写真を利用してコミュニケーション力を高めたり、選択メニューを設けて自分で選ぶ機会を増やしたりしました。また、みんなで話し合っってプログラムを決める自主的な活動にも取り組んでいます。まだまだ途中ですが、これからも笑顔あふれるチームC班を目指したいと思います。(伊澤)



生活訓練班



自分の希望する暮らしを目指して、今、訓練班では社会生活スキル学習にチャレンジ中。できるだけ長くおばあちゃんとの暮らしを続けたい人は、調理実習で習ったカレーを家で復習するために職員と一緒に食材の購入練習を。春から実家での生活に戻る人は、家の近くの図書館利用の練習を。他に銀行のATM利用など。その中で、「私できそう！」と喜びの声が届いています。
(松本千)

就労移行支援班

当事業は利用者が就職できることが良きサービスとなります。しかし単に就職できれば良いものではありません。長く働き続けられる職場（仕事内容・人間関係・賃金と様々な要素を含む）を見つけ、双方の理解を得、就職してもらいます。今年度7社の実習を経て4人の利用者が就職できました。関係機関と連携し、適性を見極めた結果と自負しています。
(沼田)



給食

『食べることは、生きること。』をスローガンに食事支援をしております。フードサービス向上のために温冷配膳車を導入しました。

食の面での自立を目指し、選択メニューを月4回実施しております。さらに地域移行が可能な方を対象に日中活動班で調理実習を月4～5回実施しています。利用者さんの笑顔に支えられて、業務を行っています。
(管理栄養士 小林)



みどりっこと早春を迎えて

わかば児童課長 三井早苗

『光陰矢の如し』とはわかば児童課の成長著しい子ども達と過ごす職員にとって、ピッタリの言葉です。4月には新学期の始まりとともに、成人課の空部屋を利用して園内保育が新たにスタートしました。

北棟で取り組んでいる発達障害児等支援対策事業は、直接支援スタッフの連携により構造化療育が定着し、子ども達に分かりやすいコミュニケーションスキルのシステム化が確立しつつあり、成果として強い拘りを持つ自閉症児の落ち着きが多く見られるようになりました。9月の中間報告書にそって、新谷義和先生(おかやま発達障害者支援センター所長)に療育現場にてスーパーバイズを得、2月の最終報告会では坂井聡先生(香川大学教育学部准教授)に評価をうけ、来年度へのステップアップを図りました。

また、25年度全国自閉症フォーラム(8月23日～25日・早稲田大学にて)ではみどり園の実践報告をする予定となり現在準備にとりかかって

おります。

一般就労を目指して高3生女子が自活訓練プログラムに取り組み、もうすぐ成果を出すこととなっています。

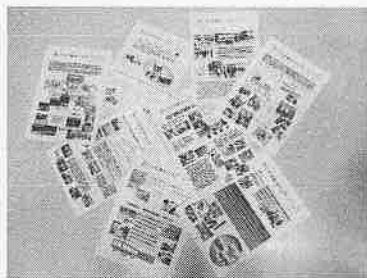
法改正により、児童発達支援管理責任者と心理担当職員が配置となり、保護者様、子ども自身の思いに添った支援を目指すとともに、被虐待等で心に傷を持つ子ども達にはみどり園で名づけた『心の先生』が定期的に彼らの思いを汲み取る時間ができ、心のケアの充実が図られています。

また中学生の自転車通学と部活動に参加する子ども達が増えました。個々の持つ力を発揮する場、社会性の育成の機会として大いに期待しています。

36人のみどりっ子と迎える早春は、一人ひとりの子ども達の成長が実感できる幸せな時期です。子ども達、職員が元気で今年度を過ごせたことに心より感謝して、また新しい希望の春を迎えたいと思います。

「西っ子児童会だより」に思う

「西っ子児童会だより」の発行は、それまで行事をする毎に不定期で、パソコン操作に長けたYさんが西棟子ども達の様子を紹介していました。その後を受けて、2年前の4月、壁新聞作りは好きだけど、パソコンはからっきしの私が西棟の広報担当として「西っ子児童会だより」を発行することになりました。



それは西棟の中に中高生を中心にした「児童会」ができた年でもありました。子ども達で会長・副会長・書記等役割分担し、主な行事の進行や集団生活する中での問題等について話し合うなど、職員の支援を受けながら、自分達で一步を踏み出したのです。

1年目は「山登りとボランティア活動で心育で身体づくり」を目標に、暑い日も寒い日も園外歩行や山登りで身体を鍛え、老人ホームへの清掃活動を定期的に計画したりしました。

2年目の今年度は、中高生全員が養護学校の部活動に参加することになり、幾人かは学校生徒会活動の中でも中心的役割を担うようになって、中々揃っての活動がし難い状況になって来ました。けれども、みどり園まつりの当日は本番に強い西っ子の本領を発揮してくれましたし、それも、子ども達がより広い世界へと羽ばたけるようになった証として、彼らの成長を喜んでいきます。

そんな子ども達の成長と相まって、私の編集技術も少しは向上したのではないかと思います。今後も西っ子達と一緒に「西っ子児童会だより」を発行していければと思っています。(高田)

発達障害児等支援対策事業を通して

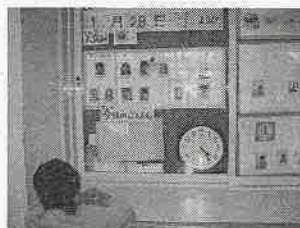
今年度、児童重度棟(北棟)と保育室では、構造化の手法を用いた環境整備や個別支援に試行錯誤で取り組んでいます。<構造化とは、スケジュールを表で掲示したり、場所にカードを貼り用途を示したり、見て分かり易くすることです。>

余暇時間の過ごし方は大きく変化しました。多目的に使用していた居室を改造したプレイルームでは、お気に入りの列車のおもちゃで遊んだり、ボールハウスでゆったり過ごしたりしてします。子どもの手の届くところにおもちゃを配置したことで、皆が自分の好きな遊びを選択して落ち着いて過ごせるようになりました。

コミュニケーションは広がりました。職員の手を引いてテレビの前に連れていくことで要求を伝えていたAさん、カードを使い始めて半年後に自分でリモコンの写真カードを取り職員に渡すことができるようになりました。数人の子どもに絵カードや写真の活用が定着しています。

子ども達の成長に合わせて支援を見直しながら、子ども達が自分で理解して行動できる、伝わる環境づくりを心掛けていきたいと思っています。(七條)

構造化の実施例



左：北棟プレイルーム掲示、子ども達が知りたい情報を分かりやすく工夫しました。
右：順番カードで確認しながら一人ではみがきができるようになりました。

東棟ののんびり休日



成人課東棟は男性17名のパワフルな棟です。平日はそれぞれ日中活動班でがんばっていますが、休日はゆっくりと棟生活を送っています。プレイルームで歌番組のDVDを見たり、自分の部屋で好きな写真やカレンダーを眺めたり音楽を聴いたり、ウォーキングへ出かけたりと、それぞれ好きな時間を過ごします。

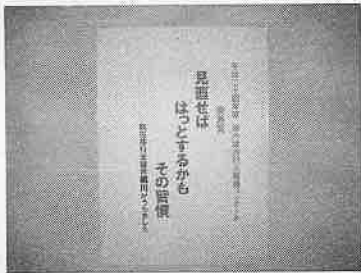
利用者の方がみなさん大好きなのは、おやつ の時間です。ホットケーキやお好み焼き、フレンチトースト…職員お手製のおやつは、すぐに利用者の方のお腹のなかへ消えていきます。休日に蓄えたパワーで、平日の日中活動班も頑張ります！

(秋山)



トピックス

「虐待防止の取り組み」

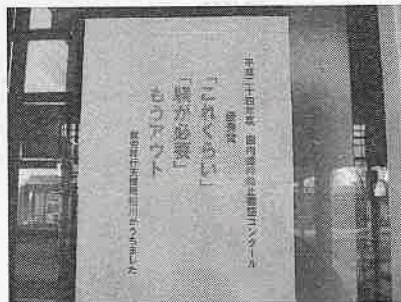


当園では、平成22年1月に虐待防止マニュアルを策定し、園内に虐待防止委員会を設置して虐待防止に取り組んでいます。

今年度も4月、

7月、10月、1月の職員研修、5月、12月の職員のセルフチェックの他、全職員から虐待防止標語を募り、選んだ優秀作品を園内に掲示する取り組みを行いました。また、園外虐待防止委員を兼ねて苦情解決第三者委員にもご意見をいただきました。

(園内虐待防止委員会事務局 尾崎)



退職者紹介

滝口裕美

児童課と成人課の重度の人達と接して、言葉でのコミュニケーションが難しい人が多くおられますが、この人達は言葉で人を傷つけることはありません。言葉が言えたらどんなことを言うだろうかと考えながら、日々、言葉の意味と自分自身を反省させられる機会になりました。10年間お世話になりました。

熊井清美

退職の日まであと僅かとなりましたが、ほっとする一方で、やはり淋しいものがあります。振り返ると、子ども達の笑顔と元気は、ほかでもなく私自身の元気につながっていたことに気付き、いまさらながら感謝している次第です。

彼らにとっても進級、巣立ちの春ですが、明るい未来と、さらなる成長を願ってやみません。ありがとうございました。

岡田久美子

就職して37年、たくさんの方との出会いと思い出がありました。みどり・わかばは20数年お世話になり、より思い出深いものがあり懐かしさと寂しさが入り混じった複雑な気持ちです。共に過ごした時間、そして、皆さんの笑顔忘れません。本当に有難うございました。またいつかどこかで出会える日を楽しみに・・・

苦情解決処理状況

(平成24年10月1日～平成24年12月31日)

苦情受付件数 0件

<研修会のご案内>

研修会の内容は毎年進化していますが、今年度も皆様の積極的な参加により、より充実した研修になりました。ありがとうございました。

来年度の計画は決まり次第川部みどり園のホームページに掲載いたしますので、皆様、奮ってご参加ください。(有岡)

編集後記

年末に北棟の玄関をご覧になった保護者の方が、視覚支援のツールに気づかれて「写真を貼ったり印をつけたり色々としていますね」とおっしゃってくださいました。広報紙を通して一步一步前進しているみどり園の今を知って頂けるとうれしいです。(七條)

編集・発行 〒761-8046 高松市川部町418
香川県立川部みどり園 TEL(代)087-885-8600
E-mail:midorien@pref.kagawa.lg.jp
http://www.pref.kagawa.lg.jp/shogaihukushi/midorien/